

郊外住宅地での健康まちづくり（その3）

一大阪府豊能町ときわ台の街区公園の活用に関する研究一

飯田 菜緒子

〔指導教員：武庫川女子大学教授 三好 庸隆〕

キーワード：健康まちづくり，豊能町東ときわ台地区，郊外住宅地，街区公園

1. 研究の背景

健康まちづくりに取り組むきっかけとなったのは，近年問題となっている少子高齢化が加速し，郊外住宅地でのコミュニティ形成の場が不足していることから，公共用地である，街区公園の利用の減少，活性化について着目したからである。そこで，前年度の2018年度4月から武庫川女子大学と協定を結んでいる，大阪府豊能町を対象に，建設環境部の皆様，住民の皆様にご協力いただき街区公園のあり方や，活用方法，まちづくりのあり方についての実践的研究に，前年度に引き続き取り組むことが可能となった。

2. 研究の目的

本研究の大きな目的は，「郊外住宅地での健康まちづくり」であり，健康を中心として，まちづくりやコミュニティがどうあるべきかを考えた。本研究における健康とは，高齢社会において今後ますます重要となってくる「健康寿命」を延ばすことである。本研究は街区公園の利活用を中心として，ときわ台地域での健康まちづくりについて取り組んだ。

3. 研究の方法

本研究は前年度に引き続き，大阪府豊能町を中心とした実証的研究である。大阪府豊能町東ときわ台地区の街区公園を対象とし，公園の利用状況の調査を行った。調査の内容については，全11ヶ所の公園を朝と夕方の計2回訪れ，写真撮影を行い，利用人数や，利用内容について記録を録った。さらに，東ときわ台，ときわ台地区の自治会役員を対象にしたアンケート調査を実施し，過去と現在の公園の使用状況を比較した。今後の公園についての考えも伺った。

4. 大阪府豊能町について

豊能町は大阪府の北部に位置し，箕面市や兵庫県川西市に隣接している。面積は34.37km²で，標高600mを超える北摂連山の中にある。東ときわ台，ときわ台地区には坂道が多く，特に急な箇所では10%の道路勾配が見られる。豊能町の人口は19,403人（2019年10月末時点）である。図1・3より，1980年前後から増加し，1995年に人口のピークを迎え，26,613人となったことがわかる。しかし，1995年以降の人口は減少の傾向にあり，2010年には，21,952人となっている。豊能町全体だけでなく，豊能町内の各地域でもほとんどの地域で高齢化率が約50%以上となっており，豊能町全ての地域で少子高齢化問題が深刻化している。



図1 豊能町位置図



図2 「豊能町人口ビジョン」

5. 東ときわ台街区公園現地調査

この調査では，東ときわ台の11公園の現在の利用人数や利用内容などを明らかにし，状況を把握することを目的としている。

表1 調査記録スケジュール

10月6日（日）	10月8日（火）	11月14日（木）
9:00～10:30	9:00～10:30	9:00～10:30
16:00～17:30	16:00～17:30	16:00～17:30

街区公園現地調査では，利用されている公園と利用されていない公園が大きく分かれる結果となり，午前中よりも夕方の時間帯の方が人は多かった。平日と休日でも，大きく差はなかった。3回の現地調査のなかで，よく利用されていた公園は，2丁目2号公園であった。夕方になると小学生が遊んでいる。しかし，街全体を見ると，高齢者とすれ違うことが多いため，オールドニュータウンということを痛感した。10月の2回の調査では，すれ違う人も多かったが，11月の中頃の調査では，すれ違う人も少なく，街は，閑散としていた。考えられる理由としては，気温が下がったためかと思われる。13℃ではあったが，山風が吹くことや，日陰になると，体感では，10℃くらいになるため，夕方から夜にかけては，厳しい寒さになっていた。



6. 東ときわ台自治会役員へのアンケート調査

6-1 アンケートの趣旨

今回のアンケートの趣旨は，回答者本人ではなく，近隣住民の街区公園の利用について聞いている。(1)現在の利用状況 (2)過去の利用状況 (3)今後の利用についてという三部構成で行った。そのため，一般住民ではなく，東ときわ台と，ときわ台の自治会役員の皆様にアンケートを配布し，協力していただいた。このアンケートからは，現在と過去の利用状況を比較し，今後の利用促進を図ることを明らかにすることを目的としている。

	配布人数	回収人数
東ときわ台	19名	12名
ときわ台	28名	12名

	今のままでいい	利用促進を図る ほうがいい	未回答
東ときわ台	3名	8名	1名
ときわ台	1名	11名	0名

・東ときわ台

県と市町村別全国利用状況

市町村	全国利用状況(千回)
伊豆市	1.5
伊豆市	2.5
伊豆市	3.5
伊豆市	4.5
伊豆市	5.5
伊豆市	6.5
伊豆市	7.5
伊豆市	8.5
伊豆市	9.5
伊豆市	10.5

伊豆市

[illegible]

・ときわ台

とまわ台空欄利用状況

利用状況	人数
17時前空欄	2
17時台前半空欄	10
17時後半空欄	0
17時台後半空欄	5

<p>問題提起と背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会的背景 ② 学歴背景 ③ ①②より導き出されるべき課題 ④ ③を解決するために必要となること(研究の目的) ⑤ 研究の意義 ⑥ 研究の方法 ⑦ 研究の進め方 ⑧ 研究の成果 ⑨ 研究の限界 ⑩ 研究の展望 	<p>研究の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研究の目的 ② 研究の意義 ③ 研究の方法 ④ 研究の進め方 ⑤ 研究の成果 ⑥ 研究の限界 ⑦ 研究の展望
<p>研究の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研究の意義 ② 研究の意義 ③ 研究の意義 ④ 研究の意義 ⑤ 研究の意義 ⑥ 研究の意義 ⑦ 研究の意義 ⑧ 研究の意義 ⑨ 研究の意義 ⑩ 研究の意義 	<p>研究の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研究の意義 ② 研究の意義 ③ 研究の意義 ④ 研究の意義 ⑤ 研究の意義 ⑥ 研究の意義 ⑦ 研究の意義 ⑧ 研究の意義 ⑨ 研究の意義 ⑩ 研究の意義

7. 「のせでんアートライン 2019」での街区公園を活用したアートプロジェクト

5丁目1号公園の活用の有無や、活用内容を、明らかにすることを目的とした。結果は、30代の女性は、幼稚園、小学生の子どもと一緒によく利用しており、夕方や休日は賑わっているという意見であった。しかし、少し上の40～50代の男性は、子どもの絶対数が少なくなっているため、閑散としていることが多いという意見であった。10年前は、もう少し子どもが多いことなどから、利用していたようだが、現在は利用することが少なくなっているようだった。さらに、この5丁目1号公園の他には、2丁目2号公園をよく利用するという意見があった。やはり、大きな遊具や走れる広さがあると利用しやすいと言える。

東ときわ台地区では、住民の多くの人が公園の利用方法やコミュニティに関することに興味をもっていたことがわかった。現在は利用されている公園と利用されていない公園が極端であり、高齢化が進んでいるとはいえ、子ども世代と高齢者世代の多世代交流、コミュニティの形成が大切ということがわかった。しかし、トイレや水道の設備を整えることや、古くから残っている遊具など、以前から変わらない公園の環境を見直し、地域に合った、時代に沿った公園の使用方法を検討する必要がある。さらに、街をあげてするイベントには協力的であることや、大人だけでなく、子どもも参加できるイベントをするということから、コミュニティ形成の場を大切にしているということが伺える。

伊藤有希「郊外住宅地での健康まちづくり—大阪府豊能町ときわ台における実践的研究その2—」2019年